

挑戦という選択肢を持つ意味

私がゼミで過ごした2年間は、先生や先輩、同期や後輩に恵まれ、充実した日々でした。ゼミが始まった当初は、名前も知らない人たちばかりで、上手くやっていけるのか不安が大きかったことを覚えています。しかし、その不安もすぐに消え、仲間と一緒に目標に向かって過ごすことができた時間は、かけがえのないものとなりました。私が首藤ゼミを選んだ理由はいくつかあります。最大の理由は、人前に出て発表をすることに対する苦手意識を克服し、堂々とプレゼンができるように変わりたいと思ったことでした。ゼミが始まって以降、毎週のように、個人・グループ課題、輪番読書、ディスカッションなどをこなしていきました。チームで集まって話し合いやプレゼンの練習をしていくうちに、徐々に自信をもって自分らしいプレゼンをすることができるようになっていったと思います。また、同期の中でも、発表の伝え方が上手い人や、資料作りが上手い人、資格勉強を頑張っている人など、仲間たちが努力している姿を見て、非常に良い刺激を受けました。

私がゼミに入って一番成長できたことは、自分にブレーキをかけずに挑戦できるようになったことです。きっかけは、Joint Seminar や3・4年コラボゼミの企画に携わったり、先生から提案して頂いたことにトライしたりと、様々なことに前向きに挑戦するようになったことでした。いつの間にか苦手意識はなくなっていき、何か1つやってみた後には、次に挑戦するハードルが少し低くなったような感じがしました。次第に、どんなことにも自分から前向きに挑戦するように変わった一方で、同期からは「自分だけで頑張らずに頼ってほしい」と声を掛けてもらうこともあり、大変なときにはいつも助けてもらいました。

私は沢山あるゼミの中で、首藤ゼミを選びましたが、いくつかのきっかけがなければこのゼミを選んでいなかったかもしれません。他の大学に行く選択肢もあったと思います。しかし、数多くの選択の中でも、文教大学、そして首藤ゼミを選び、先生や先輩、同期や後輩に出会うことができたことは、最高の選択だったと心から言えます。授業後、夜遅くまで残って、同期とプレゼンの準備をしたり、発表の練習をしたり、他愛もない話をしながら忙しくて大変だった日々も、今となっては宝物のような思い出ばかりです。この2年を経て、自分にブレーキをかけずに挑戦することや、仲間と協力することの大切さを学びました。

もし今、自分の中で挑戦してみたいと思うことが1つでもあるなら、まずはやってみてほしいと思います。私には、失敗してしまうことや、上手くいかなかったことは、数えきれないほどありました。それでも、目標ややりたいことがあるのであれば、無数の選択肢の中から、自信を持って行動を選択し、挑戦してみるべきだと断言できます。私が多くの応援を受け、最高の2年間で手にできたように、思い切ってやってみてほしいと思っています。

2025年3月15日

首藤ゼミ第4期副ゼミ長

池田 彩夏